

村上市ゼロカーボンシティの表明について

～2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロをめざして～

村上市は、新潟県北部に位置し、豊かな漁場を有する日本海に面した海岸線は約50キロメートルにわたり、風向明媚な景観を形成しています。東部には朝日連峰の山々が連なり、そこに源を発する荒川・三面川が流れ、豊かな水資源と動植物の宝庫となっています。特に三面川は、世界初となる鮭の自然ふ化増殖に成功した河川であり、「さけの森林（もり）づくり」の活動を通して、現在も増殖に取り組んでいます。

また、旧村上城下として発展した城下町や、出羽街道などの宿場町、北前船の寄港地として栄えた港町などが原形となり、歴史と文化が織りなすまちなみが各地に形成され、現在も東北と北陸を結ぶ日本海側の重要な拠点として発展し続けています。

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、世界規模で自然災害が頻発しています。

2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」と示されています。

村上市では、SDGsの理念を念頭に、この地域のかげがえのない豊かな自然を次世代へ引き継いでいくため、二酸化炭素の吸収源である森林資源の整備や公共施設における再生可能エネルギーの利活用などを推進し、持続可能なまちづくりの実現に向け、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」に取り組むことを表明いたします。



令和3年6月4日

村上市長 高橋 邦芳

※排出実質ゼロ：CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による吸収量との間の均衡を達成すること